

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく

1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク

3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

## 2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革を踏まえた取組み推進。

(1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。

(2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。

(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。

(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。生徒授業アンケートも活用し、授業指標である「桜塚教科スタンダード」やシラバスの見直しを行い授業力の向上をめざす。

(5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。幅広い科目の学習を進んで行い、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身に付け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。

(6) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。

(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数も増える取組み推進。(利用者数の前年比10%増)

(8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース[GSC]とグローバルスタディサイエンスコース[GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国公立大学30名合格を目標とする。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の60%を向上させ65%にし、2021年度には70%をめざす。

(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。

2. 人間力をつける

(1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。

(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。

(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。

(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。保健・安全・衛生管理に留意する。

3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する

(1) OB・OG、豊中市役所等の公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。

(2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。

(3) 広報活動を積極的に行う。WEB Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。

4. グローバルリーダーの育成

(1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。

(2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化

(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。

(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方を検討する。単位数の減を最小にし、朝学等の継続と、部活動等のため放課後の時間確保も図る。それに伴う教育課程の検討を始める。

(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。

(4) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。新たに創設した「情報部」を機能させる。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進する。

(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。

(6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。

ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間未満をめざす。

(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。

6. 個人情報等の適正管理

(1) 個人情報等の適正管理をめざす

(2) 備品等の適正管理をめざす

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 朝学(総合基礎)を充実させる。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿]を生かす。</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、第一希望の進路実現を図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえた取組み</p> <p>(1) グーグルクラスルーム、クロムブック等を活用した授業形態に取組む。「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行うことで、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。</p> <p>(2) GSCの授業で、4大学から Native English Teacher等の講師を招聘し、Speaking力の向上をめざす。全学年でリスニングテストの実施。GTECを1・2年で実施する。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び5:30以降の講習「桜塾」を継続実施する。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教員相互の授業見学を実施する。教科会により「観点別評価」に基づく授業展開・考査問題作成を行うことで、「桜塚教科スタンダード」と「シラバス」のブラッシュアップを図る。</p> <p>(5) 1年生対象に総合的な探究の時間の実施。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。知識・技能や興味・関心を身に付け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。</p> <p>(6) 積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSCにおいて高校での学習の仕方や授業規律について学ぶとともに、外部講師や卒業生による講演等で自らのキャリアデザイン等を描く。</p> <p>(7) 図書館利用者累計数の増加。図書委員会の活動の促進・カウンター係の仕事の充実化(書架・書庫の系統的な雑誌・書籍の整理)・図書便り(含:新刊書籍紹介)の定期的な発行を通じてのサイン活動の活性化。・年1回以上の校外購入選書の実施。・有効な情報検索と提供...コンピュータ利用の活性化。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。</p> <p>(9) 自宅学習の推進を図る。5:30以降の講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、ICT機器や役に立つ教材などをうまく使っている」70%以上</p> <p>(2) 受験者の50%がGTECスコア690以上(英検準2級以上)そのうちGSCの生徒は20%以上がスコア960以上(英検2級以上)。</p> <p>(3) 満足度80%以上</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」のH30年度59.2%の5%アップ</p> <p>(5) 総合基礎(朝学)の上位評価「課題に意欲的に取り組んだ」90%以上</p> <p>(6) SSSCの満足度H30年度66%の5%アップ</p> <p>(7) 図書室の利用者数H30年度914名の10%アップ</p> <p>(8) センター試験において各科目とも全国平均をめざす</p> <p>(9) スマホ・タブレット等を有効活用した勉強法を紹介。5:30以降講習受講者の昨年度と同等をめざす。(H30 250名)</p>	
2 人間力をつける	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。決められた規則を守り、礼儀に気をつける。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。</p> <p>(4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。文化祭で演劇の推進</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持前年度遅刻数(前年度68%)の5%減</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上(H30年度81%)</p> <p>(3) 年間3回以上の実施</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持(H30年度95%)</p>	

3. 地域の信頼される学校を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) 広報活動を積極的にを行う。WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。</p>	<p>(1) OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を展開させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。学校説明会等を開催して広報活動を積極的にを行う。</p>	<p>(1) 公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答 70%以上 (H30 年度 59.2%) キャリア教育と進路実現に繋げる</p> <p>(2) 年 1 回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明</p> <p>(3) WEB Page を月に 5 回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。(H30 年度 生徒 1,052 人、保護者 952 人、計 2,004 人)</p>	
4. グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材を育成する。国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組み。ホストファミリーの開拓。国際関係の諸機関・大学などとの連携の強化。NZ、米国、韓国での研修の実施。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒 85%以上 (H30 年度 82.4%)</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識。2 回の平均値 3.3 以上 (H30 年度の GS 科目の平均値 3.2)</p>	
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方検討</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換をする。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取組みを推進させる。新たに創設した「情報部」を機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図る。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業のあり方を検討する。単位数の減を最小にし、朝学等の継続と、部活動等のため放課後の時間確保も図る。それに伴う教育課程の検討を始める。</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。</p> <p>(4) 新たに創設した「情報部」は、校務処理はじめ既存分掌の情報関係業務を担う。「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織 (Sakura Project Team) の取組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均 45 時間をめざす。年 2 回の学校休業日を生かす。</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員への OJT 等の充実を図る。</p>	<p>(1) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答 70%以上。(H30 年度 59%)</p> <p>(2) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 80%以上を維持。</p> <p>(3) 運営委員会で議論する時間を確保する。</p> <p>(4) 情報部の位置づけ、役割を固める。SPT の取組をさらに機能させる。</p> <p>(5) 昨年度と同等以上の職員研修回数を確保。PTA との共催研修を企画する。</p> <p>(6) 全職員残業時間月平均 45 時間をめざす。</p> <p>(7) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率 + 3% (H30 年度は 48%)</p>	
6. 適正管理 個人情報等の	<p>(1) 個人情報等の適正管理</p> <p>(2) 備品等の適正管理</p>	<p>(1) 個人情報等の適正管理をめざす</p> <p>(2) 備品等の適正管理をめざす</p>	<p>(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年 1 回以上実施する。</p> <p>(2) 各室の備品等管理簿 (配置図含む) を作成し更新し、引継体制を強化する。</p>	